

一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報

JASCG

- 1◎巻頭言
- 2◎第34回全国大会（栃木大会）について
- 3◎調査研究委員会//研修委員会//認定委員会
- 4◎学会誌作成委員会//広報委員会//ガイダンスカウンセラー
関連情報
- 5◎支部のキラリ
- 6◎【青森県支部】一支部活動報告一
- 7◎夏のワークショップのご案内//災害被災者支援委員会報告
- 8◎会長コーナー//事務局より//編集後記

第65号

巻頭言 私と教育相談

～教育相談の心～

私が中学校教員11年目のある日、担任していた1年生のある生徒が不登校になった。その対応に四苦八苦したことがきっかけで教育相談に出会った。翌年度、岡山県教育センター教育相談部の研修講座を受講、その翌年には長期研修員として1年間研修に取り組んだ。研修だけでなく、多くの人と出会えたかけがえのない1年間であった。教育相談との出会い、多くの人との出会いを通じて、教師としての私は生徒の見方が変わるとともに、それを契機に自分自身も変わっていくことになる。教師として生きるのが少し楽になった実感があった。数年後に、生徒指導主事を担当したときも、私の中では教育相談と生徒指導は統合されていた。

ところで、岡山県の教育相談の父とも母とも言える存在なのが、高橋長蔵先生である。残念ながら、平成30年12月に亡くなられたが、今でも私たちの心の中に生き続けておられる。「共にいる」だけで気持ちが安らくなる、そんな先生だった。長蔵先生が大切にされていたのが「教育相談の心」である。長蔵先生が県理事長をされていた平成6年度、本学会の全国大会が岡山で開催された。そして、平成



学会誌作成委員長 藤井 和郎

28年度には再び岡山の地で開催し、長蔵先生に大会名誉実行委員長として出席していただくことができた。「お元気なうちに岡山で2回目を」との私たちの思いが実現できた。

「教育相談の心」は、いろんなとらえ方があるだろうが、私は「人を（人の存在を）愛おしく感じる気持ち」ではないかと思う。

私が、岡山県総合教育センター特別支援教育部長時代に始めた「学校コンサルテーション事業」も、総社市教育委員会学校教育課長時代に始めた「だれもが行きたくなる学校づくり」も、そのベースには、私なりの「教育相談の心」がある。現在でもこれらの事業が継続していることは本当にうれしい。

これからも心の底に「教育相談の心」をもって生きていきたいと思っている。

第34回全国大会（栃木大会） （2022年（令和4年）8月5日～7日） について

2021年（令和3年）の4月末時点における全国大会栃木大会についての栃木県支部の考え方と実施案、並びに準備状況をお知らせします。

＜栃木支部の考え方と実施案＞

去る3月14日に開いた実行委員会3役会議上の意見、それ以降支部に寄せられている会員のご意見を総じてまとめてみました。（網掛け部分が直近の実行委員会3役合意です）

- ①・コロナ感染拡大第4波の可能性が迫っている状況の中、かつワクチン接種計画もバタバタしている現状、来年夏までに果たして完全な感染終息に至るのかはなほだ不透明と考えざるを得ない（3役会議）
 - ・オリンピックのようなリスクを背負った何か何でもの開催ありきの立場は取れないし、教育に深く関与する当学会にはふさわしい在り方ではない（学会員意見）
- ②・学会員を始めとした全国の多くの方々には教育現場で日夜生徒への感染防止対策にいそしみながら教育との両立に苦悶疲弊している状況がある（学会員意見）
 - ・現状での開催は夏休みとはいえそれ以前からの企画、準備、そして当日参加にはそれ相当の時間とエネルギーを割くことになる。直接開催であれ、リモート開催であれ例年のように企画、参加する余裕、体力が果たしてあるのだろうか。形だけの開催にはしたくない（他県学会員意見）
 - ・そのような中、今夏の兵庫大会を急遽オンライン参加研式に変更して開催するという決断には驚きと共に敬意を表するしかない（3役会議及び学会員意見）
- ③・本県は東京都、埼玉県に隣接する地理的位置にあり、第2回目の首都圏中心に出された緊急事態宣言対象に追加された地域だ。仮に来年夏までにワクチン接種も完了せず、感染の火種がくすぶったままの直接参加大会には不安がある（学会員）
 - ・今後本部とも協議はするが、支部としては日程を8月6日（土）～7日（日）（☞ 研修会0.5日、

総会行事+実践研究発表等1.5日）に短縮し、オールオンライン形式で実施する（3役会議での合意）

- ④・来月5月16日実施の支部理事・役員会上で今年度の支部総会（6月5日）に関わる議事に加え、来年の栃木大会についての実行委員会3役会議提案（栃木大会は日程を短縮し、オールリモート開催）を検討してもらう（3役会議）

＜準備状況＞

実行委員会は26名の規模でおとし2019年（令和元年）7月に組織しました。まだコロナが話題にもなっていなかった時期です。

梅川事務局長には様々なご助言をいただき、おとしの8月実施の第31回宮城大会には多くの県内実行委員に舞台裏を見てもらいました。

後援になっている一般財団法人栃木県連合教育会（県内地区教育会の元締め）所有の栃木県教育会館の無償提供も申し出ていただき、事務委託業者も選定し、記念講演講師も決まり幸先の良いスタートでした。

ところが昨年度の急速なコロナ感染悪化により兵庫大会延期が決まっていたのち、頼みの綱の教育会館無償提供も収益事業悪化に伴い危ぶまれ、業者との契約変更は必至、記念講演講師もいったんキャンセル、実行委員会も「三密」を避けるため昨年度2020年度は1回も開催できていません。

大会スローガン案は3役会議でほぼ形になっていましたが、コロナを強く意識していなかったため再度検討。「歴史上未曾有のコロナ禍の中で浮き彫りになった全国の教育現場で表出した膨大な困難と課題、そしてこの難局を乗り越えるべく叡智に満ちた実践、エピソードをあらゆる角度から掘り起こし、検証し、総括し、新しい実践に向かって元気と勇気がもらえる前向きな大会」になれるよう企画を練り直したいと思えます。

このようにすべてスタートラインに立たされました。

今後とも皆様のご意見、ご協力、ご声援をよろしくお願いいたします。

（文責：栃木大会実行委員長 柴一彌）



★調査研究委員会

調査研究委員会では、今まで活動してきた内容を整理して報告書にまとめることにしました。そしてそれを本学会の学会誌に投稿することにしました。報告書の概要は以下の通りです。

＜調査研究委員会 報告書内容＞

テーマ:教育活動において教員が感じる困難と教員へのサポート体制に関する研究

(1)被災地で支援活動をする学校関係者を支えるためには

～被災してから長い年月が経過してもなお困っていることから考える～ <木村正男・岐阜県支部>

(2)教育活動において教員が感じる困難と教員へのサポート体制に関する調査の結果報告 ～質問紙調査から～ <金子恵美子・群馬県支部>

(3)教育活動において教員が感じる困難と教員へのサポート体制に関する調査の結果報告 ～インタビュー調査から～

<鈴木章乃・愛知県支部、小笠原淳・岐阜県支部>

(4)教員へのサポート体制に関する提案 ～質問紙調査・インタビュー調査から～

<木村正男、金子恵美子、鈴木章乃、小笠原 淳>

(5)被災地で支援活動をする学校関係者を支えるためには

～被災した教職員の記憶を記録し、後世に役立つように伝える～ <磯野 清・兵庫県支部>

(6)〈あの日〉からを振り返る。私たちは何に困っていたのか。 <藤坂雄一・宮城県支部>

(7)日本教育相談学会の研究調査委員を終えて <草野 剛・岐阜県支部>

(8)調査研究委員会で学んだこと <森 俊郎・岐阜県支部>

今回の報告書が、今なお災害で苦心している学校関係者への支援のために役立ち、今後の支援活動の参考になればと思っています。

(文責:調査研究委員長 木村正男)

★研修委員会

令和2年度研修委員会活動報告

研修委員会の年間2大行事である夏季ワークショップと中央研修会ですが、夏季ワークショップはコロナ禍の影響による兵庫大会の1年延期を受けて、ワークショップ自体も延期となりました。

また、中央研修会もコロナ禍の影響を受け、例年どおりの時間開催はかありませんでした。

ただ、研修は学会の会員向けの責務でもありますので、Zoom ミーティングを活用したオンライン研修(ライブ配信)として以下のとおり実施いたしました。

【第31回中央研修会】

①2021年1月9日(土) 14:00～17:00

(Zoomによるオンライン研修)

②基調講演『コロナ禍で、学校教育相談を再考する』

講師:法政大学教授 渡辺弥生 先生

③新春対談『未来への提言～コロナ時代における学校教育相談が果たす役割～』

栗原会長と春日井副会長の対談でした。

当日は、会員、非会員のみなさま併せて291名の方が接続されていました。会員の皆様のご協力と、講師の先生方のご尽力に感謝申し上げます。

なお、令和2年度の研修委員は、会沢信彦、渡辺正雄、加藤秀行、高橋あつ子、瀧川豊宏、茅野真起子、中里和裕、中林浩子、石橋瑞穂、田邊昭雄 以上10名でした。(文責:研修委員長 田邊 昭雄)

★認定委員会

○令和2年度の資格取得等の状況について

- ・学校カウンセラー新規取得者 23名
- ・学校カウンセラーを基礎資格としたガイダンスカウンセラー新規取得者 12名
- ・学校カウンセラースーパーバイザー新規取得者 6名

○学校カウンセラー資格更新認定について

依然コロナ禍の状況にありますが、オンライン等の方式で研修会等が再開されていますので、学校カウンセラー資格更新認定を今年度は実施する予定です。昨年度更新予定でした次の学校カウンセラー認定番号の方々が更新対象になります。申請をお願いします。

第1回認定(14 ～ 208)

第6回認定(569 ～ 630)

第11回認定(842 ～ 894)

第16回認定(1099 ～ 1036)

第21回認定(1326 ～ 1368)

○今年度の諸認定申請の締切等について

- ・学校カウンセラー申請
要項配布済み。締切:9月15日
- ・学校カウンセラー更新申請

該当者への案内配布7月上旬予定。

締切：12月1日

- 学校カウンセラーを基礎資格とするガイダンス
カウンセラー申請

案内配布7月下旬予定

申請受付期間：9月1日～18日

- 学校カウンセラースーパーバイザー申請
要項配布済み 締切：10月1日

どうぞ皆様、期日までに申請書類の御提出をよろしく願います。御不明な点は認定委員会へお問い合わせください。

(文責：認定委員長 築瀬のり子)

★学会誌作成委員会

本会報と共にお届けしている学会誌第31号をご覧ください。今回は寄稿論文と論文3本、及び調査研究委員会活動報告を掲載しています。また、「投稿規定・審査に関するガイドライン」と「論文作成の手引き」も改訂していますのでご確認ください。

「投稿規定・審査に関するガイドライン」は大幅に改訂しました。投稿の際には学会誌第31号に記載している投稿規定に従ってくださいますようお願いいたします。新たに「投稿前チェックシート」を設けています。本学会ホームページよりダウンロードすることも可能ですので、投稿論文に同封してください。

また、すでにお知らせしておりますように、論文審査方法も変更しています。学会誌第31号及び本学会ホームページに論文審査の流れ図を掲載していますので、ご確認ください。

学会誌第31号に記載している「論文作成の手引き」を参考にされて、より多くの会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。

本委員会では、夏の研究大会と冬の中央研修会のワークショップで「論文の書き方」コースを担当しています。今年度の研究大会はオンライン開催ですが、本会報に同封のチラシのとおり実施しますので、ぜひご参加ください。

支部理事長様へお願い

各支部に、論文推薦及び論文指導の担当者を位置付けてください。もちろん理事長や理事の方等が兼ねてくださっても結構です。よろしく願います。

(文責：学会誌作成委員長 藤井 和郎)

★広報委員会

今や教育サービス業界には、幼児期からの子ども達を対象とした学習塾や英会話教室、通信教育など多種多様な教育サービスを提供する民間企業が多く存在しています。最近ではオンラインで遠隔授業をはじめ、ICT (Information and Communication Technology) 活用による学習効率を高める試みやAI (Artificial Intelligence) 教材なども積極的に取り入れ、この分野を得意とするスタートアップ (市場開拓フェーズにある企業や事業) との業務提携を行う塾や教室も増えてきていると聞きます。まさに、多様な教育サービスの展開が市場で繰り広げられる時代に入ったと言えます。

私事で恐縮ですが、筆者が勤める教員養成を主たる目的とする大学教育学部においても、もちろん多くの学生は公立や私立の教育現場の教員を目指してはいますが、中には教員免許を取得しても教員とはならず、上述の教育サービス産業に就職を希望する学生も相当数いるのが現状です。「教員にはならないけれど子どもが好きなので教育にかかわる仕事はしたい。」「何か側面から教育を支えるような職業に携わりたい。」と彼らの多くは述べます。コロナ禍にあって、新たな学習スタイルを体験した学生達には、教育サービスを提供する民間企業はとても身近でしかもチャレンジングな職場に映るのかもしれない。

少子化が進む現在、業者間では少ない子ども達の獲得競争が激化しているとは思いますが、教育に携わる者の基本である「子どもの心を育てる」ことだけは決して忘れないで欲しいと願うばかりです。

(文責：広報委員長 山本 健治)

★ガイダンスカウンセラー関連情報

★ガイダンスカウンセラーの認知拡大のための取り組み

文部科学省「スクールカウンセラー等活用事業に関するQ&A」(2020年10月)で、ガイダンスカウンセラー資格が例示されたことを踏まえ、本協議会では、都道府県教育委員会、文部科学省にスクールカウンセラーへの採用を訴えております。

その際に使う資料として次の2つのアンケートに取り組むことになりました。

- 依頼1：「ガイダンスカウンセラー講演・研修
タイトルデータベース」づくり

- ・ガイダンスカウンセラーがこれまでに講師をされた講演や研修のタイトル（「一行、一タイトル」を教えてくださいアンケートです。
- ・使い道：ホームページで公表（個人情報関連箇所は削除）。多くの協力が得られた場合は、本データから学術論文を作成して今後の活動につなげます。

●依頼 2：「ガイダンスカウンセラー実践報告文」の募集

- ・ガイダンスカウンセラーの実践を A4 判2枚程度の文章で報告していただくアンケートです。
- ・使い道：担当委員会で検討して、会報、ホームページ、パンフレットなどで掲載。

ガイダンスカウンセラー認定試験、ガイダンスカウンセラーの資格更新、公認心理師情報、公開シンポジウム、本部強化研修等の詳しい情報は日本スクールカウンセリング推進協議会のHP (<http://jsca.guide/>) をご覧ください。

（文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー 加勇田修士）



☆支部のキラリ！☆

各支部で現在活躍されている先生方のキラリと輝く取組を紹介していく企画です。

キラリと輝く取組をされている会員がおられましたら自薦他薦を問いません。是非、広報委員会にご紹介ください。

「エンカウンターグループ、非暴力コミュニケーションそしてオープンダイアログのすすめ」



大阪府支部 水野 行範

気持ちは20代、からだのあちこちからはコキコキという音が聞こえてくる今日この頃。何ていうと、「しょおおむな」と生徒からのツッコミがはいりそうな大阪の公立高校で、社会科教員をしながら教育相談を担当して40年足らず。終わりの13年間は、不登校経験のある生徒が半分以上を占める通信制高校で「発達障害」保護者の会を保護者・養護教諭と一緒に立ち上げたりもしました。その後、私学の子中高校でスクールカウンセラーとして4年7ヶ月。

馬齢を重ねながら学校教育相談の海を泳いできて、今年4月からは、フリーの立場になりました。

40年前、エンカウンターグループ（EG）を日本にもたらした畠瀬愼さんが主催する「教育のためのエンカウンターグループ経験と人間中心の教育研修会（有馬研修会）」に参加したのが出発点です。福岡の小学校教諭古賀一公さんによる「ひとり学習」など教育相談活動を授業に生かす取り組みを知り、自分の授業にも取り入れました。学級参観に行き、「ひとり学習」で育てている小学2年生の生徒たちの自立した姿とひとりの人間として生徒に向き合っている古賀さんの率直な姿には大きな感銘を受けました。

「教師は生徒集団を相手にするのだからぜひグループ体験をしてほしい」というのが畠瀬さんの願いでした。3泊4日の有馬研修会を体験した後、3学期に久しぶりに出会う生徒たちの顔は、ひとり一人がとてもくっきりと見えました。40年以上たった今も、毎年、クリスマスは有馬研修会でグループのファシリテーターとして参加し続けています。教育相談に関わる教師の皆さんにはぜひEGを体験してほしいと思っています。

ここ10年以上、非暴力コミュニケーション（NVC）とオープンダイアログ（OD）に、自分なりに取り組んできました。

学校では、体罰・校内暴力・いじめなど暴力的手段によって問題の解決を図ろうとする事件が後を絶ちません。

非暴力コミュニケーションは、カウンセリングの基礎を築いたカール・ロジャーズの理論と実践を踏まえて、さまざまな対立を非暴力的に解決するためにマーシャル・ローゼンバーグが提唱し、様々な実践が積み重ねられてきました。

「評価をまじえず、レッテルをはらずよく観察する」「感情を受け入れる」「心の底にあるニーズ（本当に欲しているもの）を探る」「相手に要望（してほしいこと）を伝える」の四つのステップからなっています。相手に対して怒りを抱き、暴力によって傷つけたり、抑えつけたりするのではなく、相手と対話を積み重ねてお互いに理解し合う関係を作っていく試みです。中心になるのはニーズを探し出す洞察と対話です。

生徒、保護者、同僚、管理職に対して腹が立って仕方がない時にも応用できます。

NVCでは、怒りの感情を否定しません。むしろ、その感情を受け入れ、ニーズ（本当に欲しているも

の)を探るシグナルとして洞察を進めていきます。いやなことをされたと訴えてきた生徒がいるとします。教育相談では感情を受容し共感的に聴いていきますが、NVCではもう一歩踏み込みます。「あの子に腹が立つんやね。ところでその気持ちはどこから来たのかなあ」。共にその過程を探っていくと、心の底にある、その子が大切にしたいものが現れてきます。大切なものが踏みにじられることへの怒りに気づくと、次に相手への要望を考えます。相手を傷つけている人間は言われないと傷つけていることになかなか気がつきません。「すべきだ」という要求ではなく、「してほしい」という要望として伝えます。言いたいことを言えず悩んでいる多くの生徒にSVCは役に立つと思います。

オープンダイアローグはフィンランドのラップランド地方で、統合失調症など急性期の患者への地域精神医療の方法として開発され、今や福祉・教育の場面でも応用されてきています。

診察依頼があると、医師・看護師・心理士・ケースワーカーなどが複数で駆け付けます。本人や家族から症状や困っていることを聞いた後、診療チームが本人・家族の前で、見立てと手だてを中心に話し合います。その後、質問や意見を受けて、治療方針の合意を図っていきます。

「当事者がいないところでは当事者の話をしない」のが大原則です。ODでは、それはNVCとも共通するところですが、相手を対等な人間として徹底的に尊重します。

学校現場では、生徒や保護者の問題を本人不在で話し合うことが通例です。当事者を交えて対話することはなかなか難しいのかもしれませんが。

ただ、本人や家族が同席していると想像して話し合う態度を持つことができれば、ケース会議もずいぶん違ってくるのではないのでしょうか。「この子は発達障害だから」とか「あの親はペアレントモンスター」とかの言葉が安易に出てこなくなるようになれば、開かれた対話を通じた互いを尊重し合う関係性が育っていくのではないかと思います。

(担当：小川 正人)



【青森県支部】一支部活動報告

1. 支部概要

青森県支部は、平成6年12月に11名の会員で立ち上げた、東北で2番目の支部です。地域の教育相談関係研究会や行政、県教育センター指導主事の方々への地道な広報活動を通して、ようやく50名近い支部会員となりました。令和3年度は42名スタートです。

青森県は、交通の便が良いとはいえ、更に冬は豪雪のため移動が大変な県です。毎年続けてきた年2回の研修会には、2時間以上かけて参加してくれる会員もいます。そこで、研修会への参加が難しい地域の会員のために、平成26年度から3年間、サテライト研修を実施しました。会員3名以上で、研修担当理事に講師派遣を要請すれば、講師経費の豊富な会員を、講師として派遣する制度です。講師謝金は、支部研修費から支出したので、参加者の負担は少なく済み、さらにサテライト研修には、会員でない地域の教員も参加可能で、教育相談の普及とともに、学会への勧誘もできたので、この時期には会員が増えました。また、学校カウンセラーの資格を取りたい会員は、このサテライト研修でポイントを獲得し、3年目には多くの会員が、学校カウンセラーの申請をおこなってくれました。

今年は、研修テーマ「仲間と共に高めあえる子どもたち」を育てるスキルの習得を掲げて4年目になりますが、研修計画には、〈アセスメント〉〈学習支援〉〈一次支援〉〈二次支援〉〈三次支援〉に関する内容を、バランス良く取り入れるようにしています。また、昨年度から、コロナ禍の影響で、対面での研修会が難しくなった反面、オンラインでの会議や研修会が、より身近なものになりました。移動しないで他支部の研修会にも参加でき、経済的負担も減少するという利点もあり、移動が難しい会員にとっては、今までより研修に参加しやすくなったという意見も聞かれました。最近では、少人数でのオンライン事例検討会等のリクエストも出ています。

2. 令和2年度活動報告

(1) 総会・理事会

①第1回理事会および総会

コロナ禍による行事開催等自粛のため、メールに



よる会議に変更して開催とした。

②第2回理事会

- ・日時：令和3年3月14日(日)
- ・オンライン会議
- ・令和3年度総会準備

③研修担当理事・事務局会議(オンライン)

- ・令和2年9月26日(土)、10月16日(金)、
11月3日(火)、令和3年2月13日(土)

(2) 支部研修会

①第1回研修会

- ・日時：令和2年6月5日(土) 中止

②第2回研修会

- ・日時：令和2年12月5日(土) 10:00~12:00
- ・会場：弘前市立文京小学校視聴覚室
- ・内容：ZOOMによる研修会運営と参加方法
- ・講師：青森県支部事務局長 工藤雅督

③第3回研修会(共催：青森県学校教育相談研究会)

- ・日時：令和2年12月13日(日) 10:00~12:00
- ・会場：弘前市立文京小学校(ZOOM開催)
- ・内容：「ぼくは文字が読めないアーティスト」
～発達障害児の困難さと望まれるサポート～
- ・講師：Artist GOMA & 小玉有子

④第4回研修会(北海道・東北ブロック研修会)

- ・日時：令和2年12月26日(土) 10:00~12:00
- ・会場：弘前市立文京小学校(ZOOM開催)
- ・内容：第3回研修会と同じテーマ
- ・講師：Artist GOMA & 小玉有子

3. 青森県学校教育相談研究会との連携

令和元年よりと相互協力体制を強化し、双方の会員の研修機会確保のため、令和3年度も、研究協議会を共催で実施する予定です。

(文責 青森県支部理事長 小玉有子)

★夏のワークショップのご案内

【日本学校教育相談学会第22回夏季ワークショップについて】

- ・期日：2021年7月30日(金)
- ・形式：オンライン研修(ZOOM)
- ・内容と講師

<午前の部> 9:00~12:00

Aコース「明日からに使える生徒指導・教育相談の技~ネットいじめ・ゲーム依存、コロナ禍での集団づくりも含めて~」

講師：金山 健一(神戸親和女子大学)



Bコース「発達障害のある子どもへの支援について」

講師：岩永 竜一郎(長崎大学)

Cコース「論文の書き方講座」

講師：山崎 洋史(昭和女子大学)

Dコース「ファシリテーターとしての教師」

講師：杉原 里子(スクールソーシャルワーカー、
ホワイトボード・ミーティング認定講師)

<午後の部> 13:00~16:00

Eコース「チームとしての学校・教育相談校内体制づくり」

講師：植山 起佐子(スクールカウンセラー)

Fコース「コロナ感染時代におけるいじめ・不登校への対応 一子ども理解と指導・支援・ケアの視点から」

講師：春日井 敏之(立命館大学)

Gコース「学校教育相談に活かす描画法 ~理論から臨床まで~」

講師：橋本 秀美(跡見学園女子大学)

*コース内容や参加費、申し込み手続き等の詳細につきましては、第3次案内にてご紹介いたします。今回はとりあえず講師の先生方とテーマについての紹介です。また、都合により内容、講師、時間帯等について変更となる場合もありますのでご承知おきください。(文責：研修委員長 田邊 昭雄)

★災害被災者支援委員会報告

今年もコロナ禍における支援活動は、大きく制限されており、物理的に被災地訪問は成立しない状況です。支援委員会自体の会合も、直接顔を合わせてということが難しいため、「リモート会議」という形で、委員同士の情報交換、意見交換を実施している状態です。

大学なども授業をリモートで行う、会社でも一部リモートワークという形が定着しつつあるようですから、仮にコロナが収束しても、リモートの良さは、残されるのではないかと考えます。

今の時点で、<支援活動>自体がどうあるべきかは大きな問題ですが、過日、東北地方での地震があった時に、少し間を置いて、宮城県支部会員の方に、被害の状況をメールで問い合わせたことがあります。自宅や勤務校での一部に被害があったが、何とか対応しているとの返信をいただき、やや安堵したことがあります。何か起こるか油断はできませんが、電話やメールでの情報は貴重なものです。

現在、災害被災者支援委員会では、夏の兵庫大会に向けての準備をしています。今年の大会もリモート会議形式のようですが、定例の「全国災害対策委員会」も、リモートで実施したいと思っています。また、〈東日本を中心とした災害支援活動の振り返り及び支援プログラムの提案〉と題して実践事例発表も行いますので、ご参加をお待ちしております。

(文責：災害被災者支援委員長 砥柄 敬三)

★会長コーナー

6年を振り返って

本学会は、各自治体の教育センターの教育相談研修の受講者を基盤として生まれた。その研修講座が教育相談への動機づけ機能を果たし、会員のほぼすべてがセンター経由で入会した。しかし、時代の変遷とともに、教育センターの教育相談機能は弱体化し、教員が教育相談を知る機会が失われ、センター経由の入会者はほぼ皆無となった。折しも学会員が最も多かった団塊世代の大量退職や他の要因も重なり、3500人余の学会員は毎年100人超のペースで減少し、2500人を割り込み、学会の経済基盤を揺るがした。

この状況化で「入会したい」という内発的動機づけを刺激するような学会を作り、教育相談を日本の学校に普及・定着させる力をもつアクティブな学会を作り出すのか。これが、私が6年間考え続けてきたことであった。

会長としての答えは、「研究団体・研修団体・実践団体としての成長」であり、「社会的連携の推進」であった。

また、その基盤としての学会員の減少の抑止、財政基盤の確立は喫緊の課題であった。そのためには、「教育センターの研修講座に変わる研修を本学会が提供し、学会員による研修講座を免許更新講習や一般研修の形で全国展開し、教育相談の魅力と教育相談を学ぶ人間の魅力を発信する」以外にない、と私は考えた。そのために公益法人化し、「会員を超えて日本に貢献する団体」として成長することを目指した。この公益法人化は、コロナ感染拡大によって中断しているが、あと一步のところまで来ている。

この6年間、教育相談コーディネーター制度やチーム学校という考え方が広がり、本学会の主張が市民権を得るところまで来ている。会長職を去るにあたり、期待に応える十分な役割を果たせなかった部



分もあったことをお詫びするとともに、時代のニーズに答える学会としてのさらなる発展を期待し、バトンを引き継ぐ。(文責：会長 栗原 慎二)

★事務局より

コロナ禍による感染拡大がなかなか収まらず、様々な影響がある中で、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。全国の各支部の活動も、対面による実施が難しく、オンラインによる研修会・研究会の実施で学びと交流を深める取り組みが増えています。夏の全国大会もオンラインでの開催ですが、成功に向けてご支援・ご協力をお願いいたします。

○公益法人の申請中で、認可待ちの状態です。

○メーリングリスト作成のために、各会員のメールアドレスの登録をお願いしています。ぜひご協力ください。各会員のメールアドレスの登録・変更は随時受付しています。

まだの方は本部事務局までお知らせください。

(文責：事務局長 梅川 康治)

★編集後記

未だ COVID-19 の感染拡大は留まることをしりません。各支部総会も書面決済やオンライン開催になっていると推察致します。ワクチン接種が進めば少しは改善されると思われませんが、こちらも遅々としていて先が見えません。会報の原稿に目を向けても、コロナの影響を受けた内容が目立ちます。しかし、各部署で知恵を出し合い努力奮闘していただいていることに頭の下がる思いがします。必ず出口があると信じてもうしばらくがんばりましょう。

(文責：広報委員長 山本 健治)

一般社団法人日本学校教育相談学会 会報
第65号

令和3年6月20日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会
会長 栗原 慎二

編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会
広報委員会 委員長 山本 健治

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>